

連携室だより

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2014.12 vol. 104

平成26年度

## 循環器病看護エキスパートナース研修を開催して

平成26年10月20日から10月29日の8日間、国立病院機構九州グループ主催の循環器病看護エキスパートナース研修を開催しました。循環器病看護の質向上を図るため、個別性を踏まえた水準の高い看護実践のできる人材育成、及び循環器病看護においてリーダーシップを発揮できる人材育成を目的として研修を行いました。研修生は、九州管内9施設から循環器病看護の経験が3年以上であり、かつ循環器病看護実践の役割モデルとして将来期待できる12名が参加しました。



研修内容は、循環器病の病態・治療・検査及びそれに伴う看護についての講義とフィジカルアセスメントの演習を行い、それを踏まえて、手術室、心カテ室、MSC等の見学と病棟実習を行いました。講義は全て公開講座とし、鹿児島県内の地域医療連携機関から述べ286名の参加があり、熱心に学ばれる姿からこの研修に対する関心の高さが窺えました。

また、山口大学大学院医学系研究科の山勢博彰先生による「救急・重症患者と家族のための心のケア」のテーマで特別講演を開催しました。講演後に事例検討を行い、山勢先生にも入って頂き、心理社会的問題を多角的に捉えるためのコーピングやサポート、認識、ニーズの4つの内容について情報収集し、看護を論理的に考えることの大切さや、それによって患者に必要な看護が見えてくることなどを学ぶことができました。

研修時間外では、初日に当院職員も参加し、懇親会を行いました。県内各地域から来られた研修生に鹿児島名物料理を味わってもらいながら交流を図り、自己紹介では、ご当地自慢をしてもらい、情報交換をしながら楽しい時間を過ごすことができました。

研修後のアンケートでは、「講義の流れが病態・概論・看護と関連していたため理解しやすかった」「講義では、他職種の方から最近の詳しい説明をして頂き、とても勉強になった」「他施設の看護師と交流することで刺激を受け、今後自分も頑張っていこうと思った」等の感想が聞かれました。これらのご意見を踏まえて、来年度もさらに充実した研修を企画したいと考えております。

最後に、研修生の皆様が、今回の研修で学んだことを看護実践の場で還元し、循環器病看護エキスパートナースとして活躍されることを期待しております。

（文責：看護師長 田上 さとみ）



## 第3回 地域医療連携懇談会を開催して

去る11月12日（水）、第13回鹿児島医療センター地域医療支援病院運営委員会および第3回の地域医療連携懇談会を、城山観光ホテルにて開催しました。

懇談会の前に地域医療支援病院運営委員会を開催し、外部より鹿児島県医師会副会長 野村秀洋先生、鹿児島市医師会副会長 今村正人先生、鹿児島県薬剤師会会長 内野 悟先生、元南日本新聞社監査役 大野達郎様、鹿児島市消防局長 山下裕二様、鹿児島市保健所所長 徳留修身先生の6名の委員の方々にご出席頂き、当院の運営について有益なご質問やご意見を頂きました。

懇談会には、今回は医師に加え、看護部、医療ソーシャルワーカー、地域連携室、薬剤科、検査科、放射線科および事務部等から211名、総数324名出席して頂きました。地域医療を支えている多職種のスタッフに多数出席して頂き感謝申し上げます。また、欠席の予定でおられた先生も、当日何とかご都合をつけて出席して頂き大変ありがたく思っております。

同じ職種同士が繋がりを深めることにより顔の見える連携を目指し、今回、同じ職種の方がなるべく近い座席になるようにさせて頂きました。

例年、乾杯の前に当院の活動報告をしておりましたが、今回は、花田修一院長の開会挨拶に続いて、野村秀洋先生に乾杯の挨拶をして頂いた後意見交換会に入りました。会食中に、活動報告として当院で経験した事例を1症例報告しました。

テーマは「患者さんが望む支援～心の通う連携～」かかりつけ医、当院医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、および後方病院等が密に関与し、地域連携室が早期に介入し早い段階で透析導入に至ったことが分かる事例でした。

まず、泌尿器科の鶴田雅史医師が受け持った症例の経過を発表し、3階病棟看護師がどのように関わったかを、石原加奈子看護師が「患者・家族の意向にそった退院支援」のタイトルで発表しました。次に、「医療ソーシャルワーカーの関わり～本人、妻の気持ちを聞きながら～」のタイトルで、地域医療連携室の山口奈都美さんが医療ソーシャルワーカーの立場から発表して頂きました。

新任医師の紹介では、消化器内科医長 藤田浩先生、産婦人科医長 築伸仲太郎、皮膚腫瘍科・皮膚科医長 松下茂人先生に挨拶して頂きました。

最後に、今村純一副院長の挨拶で閉会しました。

至らぬ点が多々あったことと思いますが、メディカルサポートセンターは今後なお一層地域の医療施設との連携を深めたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。

（文責：メディカルサポートセンター長 藺田 正浩）



## 「第63回おはら祭り」に参加して

11月2日（日）、3日（月）の2日間、鹿児島市にて南九州最大のお祭り「第63回おはら祭り」が開催されました。当院は例年通り11月2日の夜祭りに、医師・看護師・多職種等約190名で参加致しました。本番に向けて、合同練習を3回実施し、最終日は多数の参加で練習を行うことができました。初心者の方はなかなかうまく踊ることができなかつたため、経験者が手助けを行いながら練習を進めていったことで、多職種間のコミュニケーションや団結力が芽生えたように思います。



当日は昨年と同様、朝から天候が悪く、中止にならないか心配でしたが、無事本番を迎えることができました。医師・看護師など、日頃の白衣姿から一変してハッピーや浴衣姿に変身。ハッピー姿が約175名、浴衣姿が約15名の大踊り連が完成しました。記念撮影を済ませ、まず院内の1階フロアで入院患者さまへ踊りを披露した後、会場へ向かいました。永田シロアリから市役所前までのメイン通りでたくさんの方々の声援を頂き、踊り終わった後は、全員で成し遂げた達成感を感じることができました。

今回、おはら祭りに参加して、鹿児島医療センター職員のチームワークや団結力を感じることができました。そして何より院内のお披露目の時に患者さんの笑顔を見ると、色々苦労したことが吹き飛び、また来年も参加したいと思いました。

（文責：医療サービス向上委員会イベントチーム 大迫 朋子）



11月3日（月）に行われた第63回おはら祭りに、学生134名と教員3名の137名が参加しました。本校では、学生間の親睦を図るとともに地域の活動に貢献することを目的として毎年おはら祭りに参加しています。

私たちは、地域の皆様や保証人の皆様に本校の学生の活発な様子を観ていただくために、早くから踊りの計画を立てて練習してきました。学校祭と日程が近かったこともあり、おはら祭りに参加する学生は、学校祭の準備と踊りの練習が重なったりして練習が思ったようにすすまず困ったこともありました。おはら祭りは幼少のころから慣れ親しんでいますが、鹿児島ハンヤ節や渋谷音頭は今回踊るのが初めてという学生も多く、うまく踊れずに練習の必要性を感じました。練習に参加してもらえるように1年生と2年生で話し合いを行い、参加できない人も踊りの練習ができるようにみんなで協力して教えあうようにしました。合同での練習を積んでいくことで1・2年生の連帯感も生まれてきました。

当日は肌寒く、多くの見物客を前に私たちも緊張していましたが、沿道の方々が笑顔で手を振って応援してくださり、徐々に緊張も解けていきました。最後に137名の大きな円をつくって踊るころには、みんな笑顔で踊っていました。私は今回実行委員長という役を担い、みんなをまとめることができるか心配でしたが、一人一人が練習の成果を発揮してくれていたため、私も楽しんで踊ることができました。また、学生間はもちろん、学校の職員、地域の皆さんや他の連の皆さんと親睦を図ることもできました。これから観に来てくださっている方々が楽しんでいただけるように、先輩たちからの伝統を引き継いで踊ってまいります。

（文責：鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校 おはら祭り実行委員長 萩野 珠央）



# 看護学校祭「愛祈祭」を終えて

10月31日（金）に第21回愛祈祭が行われました。100名以上の来場者があり、私たちの発表を観て楽しんでくださいました。

今年は、「つながり～heart to heart～」をテーマに、地域の人々や多くの来場者の方々とのつながりを中心に考え愛祈祭を運営していきました。

「食を通して人とつながる」、「音楽や合唱を通して人とつながる」、「鹿児島特有の疾病を学び地域住民の疾病予防へつなげる」、「地域の清掃を行い地域の人々とつながる」、「献血を行い一人でも多くの人々の助けとなる」など、多くのつながりを作ることができました。愛祈祭を観に来られた地域の方から「毎年ここの学校祭を楽しみにしているんだよ。自分の身体のことでも知ることができるし、何よりたくさんの人と触れ合うことができるからね。ありがとう」と言われました。私は、とても温かい気持ちになり愛祈祭は本当に地域の方のふれあいの場となりつながっているのだと実感しました。学校内も皆の熱気と笑顔であふれ、充実した愛祈祭となりました。

運営にあたっては、最初はなかなか企画とおりにすまずに困ったこともありましたが、愛祈祭の日が近づくにつれて、皆の意識が高まり、来て下さる方楽しんでもらえるようにより良いものを創っていこうと団結力ができました。学年を超えて助け合い無事に終えることができました。来年度もさらに充実した愛祈祭となるように3学年で協力していきたいです。

（文責：学校祭実行委員副実行委員長 内門 絵菜 上荒磯 彩）



■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

## 鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

（代）TEL 099(223) 1151 FAX 099(226) 9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 藺田・四丸・井手・濱口・森・鷺頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

